

キャッチ通信

第34号
平成31年2月発行

新春のご挨拶

鳥栖・三養基地区
総合相談支援センターキャッチ
所長 西任 まなみ

梅花の候、謹んでお慶びを申し上げます。

今季の寒さは厳しくなることなく、比較的穏やかな気候で朝晩の寒さはあれども例年より過ごしやすさを感じた方も多かったのではないのでしょうか。そうは言っても朝晩の寒さはとても厳しく、暖をとるために着膨れして布団に包まりながら過ごしておりました。そんな中、ストーブにやかんが置かれた周りで身体や洋服を温めたり、周囲を走り回り「危ない」とよく叱られたりした祖母宅での光景をふと思い出しました。ストーブの独特のにおいとあたたかさ、お餅やイモを焼く時のわくわく感。来年の冬はストーブを買ってみようかな…とひそかに決意をした季節でした。

話は変わりますが、今年度の4月より、東部圏域に新しく整えられた事業(機能)を皆さんご存知ですか?地域における緊急時支援体制や日常生活支援の充実を図り、本人や家族が安心して地域で暮らすことができる地域のセーフティネットの一端を担うための「地域生活支援拠点」が面的整備にて整えられました。東部圏域のみならず、県内各圏域にて一斉に開始となった事業です。緊急時を支えるため、地域に必要なとする機能は各圏域ごとに異なります。東部圏域では、まず第一段階として、24時間365日のコーディネーター配置、緊急時の短期入所受入れ体制を面的整備で行ないました。地域で生活する人を地域で支えていくという思いでこれまで地域づくりを進めてきた当圏域では、必然の体制になったと考えています。2020年には、全国的に地域生活支援拠点事業が展開されます。そこに向けて、地域のセーフティネットとしての役割を担える必要な機能の検討を更に深めていきたいと考えています。

ここ数年、日本各地で災害に見舞われています。昨年は西日本豪雨や北海道地震がありました。佐賀県でも7月は大雨が降り冠水した地域もあったかと思えます。県内では大きな災害に遭うことはこれまでも滅多になく、どのような対応をとるか悩まれた方も多かったのではないのでしょうか。まずは自分の命は自分で守る「自助」の力が求められますが、これを発揮するためには日頃からの備えが必要になります。しかし、どれだけ備えても一人で行なえることには限界があり、そうなった時に「共助」が必要な力となります。共助とは、町内会や学校区単位で顔の見える範囲で互いに支えあうことを意味します。近隣住民や地域と日頃からつながりを持つことで、地域の一員としての役割や存在、そしていざという時に声をかけ合える地域づくりが不可欠であると改めて考えさせられた出来事となりました。

誰もが安心して生活できる地域づくりを念頭に置き、今年も邁進していきたいと考えています。今後ともいっそうのご理解とご支援をいただきますようよろしくお願い致します。

鳥栖市四包括合同研修会への参加（高齢者福祉と障害福祉の合同研修会より）

いま鳥栖市では、4人に1人が高齢者の時代となりました。時代は変わり障害者も高齢化となり、介護保険で支援を受ける方が多くなってきています。そのためこの地域でも、障害者が介護保険制度をスムーズに利用できるように、介護支援専門員と相談支援専門員が集まり、合同研修会が今年1月11日に開催されました。

障害者の手帳や制度、障害福祉でのケアマネジメントや最も重要とされる意思決定支援の考え方、地域のサービス資源や共生型サービスについて、また地域で実際行った介護支援専門員と相談支援専門員との連携事例等について学びました。

今回は昨年度とは違い、介護支援専門員と相談支援専門員の交流や関係づくりがより深まるようにと、少人数のグループに分かれて事例検討会や意見交換が活発に行われ、有意義な時間となったようです。今回の合同研修を行ったことにより、事前に情報交換を行い連携することで、障害福祉サービスから高齢者福祉サービスへ、スムーズにつながる事が可能になっていくのではと感じました。

今後も地域全体のあらゆる分野の方々と連携を行い、当事者の方々やその家族が、地域で安心して暮らせるまちづくりに向けた一歩になるよう、このような機会を増やせればと思います。


だい かい
第6回

鳥栖市障害者理解促進事業


おん がく さい いん
みんなの音楽祭 in とす
～ しょう がいの う む こ こ きょうえん
～ 障がいの有無を超えた「個」の共演～



トークイベント
うちだ かつや し
内田 勝也 氏
まるまる しょう しゃ かい
(〇〇な障がい者の会)



パフォーマン
なかしま みき し
中島 美紀 氏
しよさくか
(書作家)



しゆつ えん よ てい
出演予定
エヌピーオー
NPOわかば コスモス夢工房
わかぎえん コールとりんす
とすにしちゅうがっこう すいそうがくぶ
鳥栖西中学校吹奏楽部
【 順不同 】
※その他、サブイベントあり
(パネル展示・物販 等)

と き：平成31年3月16日(土) 11:00～15:00

と ころ：フレスポ鳥栖 (1階ウェルカムコート 他)

※ かんらん むりよう
観覧無料

主 催 鳥栖市・鳥栖市障害者理解促進実行委員会

<実行委員会参加団体(順不同)>

(株)ハートケア鳥栖、鳥栖・三養基地区総合相談支援センターキャッチ、グリーンファーム山浦、鳥栖三養基地区精神障害者家族会
鳥栖市身障者福祉協会、鳥栖市手をつなぐ育成会、佐賀・筑後発達支援親の会「夢気球」、しょうがい生活支援の会すみか
NPOわかば、社会福祉法人コスモス会、(株)マリーズハウス、鳥栖市区長連合会、鳥栖市民生委員児童委員連絡協議会
子どもと文化のネットワークぽっぽ・わーど、キッズミュージカルTOSU、鳥栖市社会福祉協議会、鳥栖市教育委員会

協 力 フレスポ鳥栖

問合せ先 鳥栖市社会福祉課 TEL 0942-85-3642

特定非営利活動法人らいふステージが取り組む

「共同生活援助」事業（障がい者のグループホーム事業）について

当法人は次の理念の下、現在4カ所のグループホーム（以下「GH」という。）を運営しています。

あなたと共に歩きたい あなたと共に生きていきたい
あなたと共に育っていききたい ただ人として 同じ人間として

【「通過施設」であること】

各 GH にはそれぞれ大まかな役割（直接支援の軽い方々が入居される GH、直接支援の重い方々が入居される GH 等）を持たせていますが、全ての GH に共通した基本方針として「あくまでも自立に向けた通過施設でなければならない」という命題をベースに支援を行なっています。

ここでいう「自立」とは、福祉サービスを卒業して一人暮らしや実家暮らしになることだけでなく、個々のレベルに応じた部分的な自立、とても些細な箇所（出来なかった挨拶が出来るようになった、時間になるとお薬を下さいとスタッフに申し出ることが出来る様になった、常に人形がないといけなかった方が、人形が無くて何とかならずに生活出来る様になった等々）も含めた自立も含めて考えています。

ここでいう「直接支援」とは、直に手を差し伸べる介護要素の強い支援を指して記載しましたが、私たち GH の支援者にとっては、直接支援が軽くても、金銭管理の指導・援助、生活技能訓練、社会生活を送る上で最低限守る必要のある多くの事柄、知っておくべき事柄の理解促進、病院の選定・自己服薬の援助等々、直接支援以上に頭と心を使って支援しなければならない事柄が溢れています。全ての職員は「プロの支援者」として恥ずかしくないよう切磋琢磨しながら OJT（日々の業務の中で知識や技能を吸収しながら研鑽を積んでいきます）の中で日々の業務に取り組んでいます。

【地域との連携】

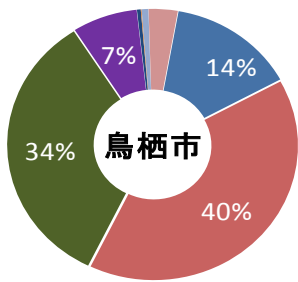
各 GH では、地域の区長さんや行政担当者の方々に集まって頂き情報交換を行なう場を年間3回から4回設けています。地域の皆さんに GH の役割やそこを利用されている方々も地域の一員であることを再認識して頂くことを大きな目標として開始した集まりですが、現在は地域環境や地域行事の情報等、利用者さんにとって有益な情報を教えて頂いたり、地域の必要な箇所に対するバリアフリー化の取り組みや施設外就労の場の検討等を一緒に行なって頂く等の連携が図れるようになっていきます。

やはり地域の皆さんと顔の見えるお付き合いを提供していくことは GH の大きな使命なのだと実感するところです。地域の皆さんに利用者さんや障がいのことを知って頂くことは、私たち障がい者福祉に携わる者が全体で取り組んでいかなければならないことで、それによって障がいのある方々の本質的なバリアフリー化が進んでいくのではないかと考えています。ハード的にスロープが出来ても、車椅子用トイレが出来ても、地域の人々が温かい心と、協力的な視線をもって障がいのある方に接して頂けるような地域環境がなければ「大いなる片手落ちの社会」しか形成されないのではという考えです。

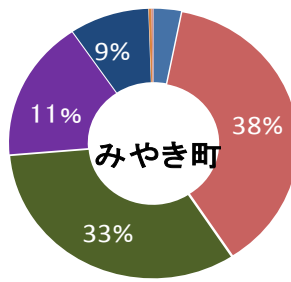
その他にも開設当初より施設内イベント（平均すると毎月程度の実施状況）を地域の方々に案内し、いつでも施設内に遊びに来て下さいというスタイルで地域アプローチを行なっています。

GH	三線	福岡県小郡市三沢水沢 465-1	定員：20名（うちサテライト室3室）
GH	コンチェルト	三養基郡基山町小倉千代 279 番地 3	定員：38名（うちサテライト室2室）
GH	弦	三養基郡基山町宮浦 1752-4	定員：11名
GH	ノート	鳥栖市田代外町 6 6 7 番地 1 「ウインザー田代外町」内 居室：101、102、204、306号室 共用室：104号室	定員：4名

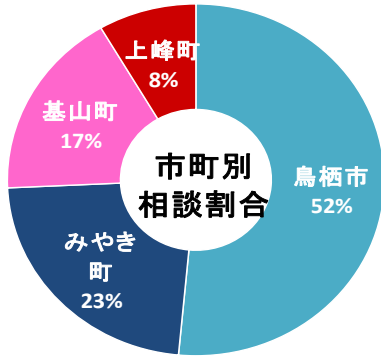
平成30年11月～平成31年1月の相談件数



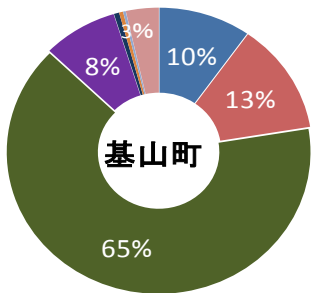
鳥栖市		
	件数	人
身体	304	24
知的	853	46
精神	717	47
発達障害	155	21
難病	9	1
重心	2	2
高次脳	16	3
手帳なし	69	8
合計	2,125	152



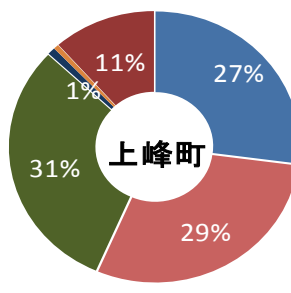
みやき町		
	件数	人
身体	29	6
知的	355	20
精神	309	15
発達障害	159	14
難病	84	4
重心	3	2
高次脳		
手帳なし	2	2
合計	941	63



	相談件数	相談者数
鳥栖市	2,125	152
みやき町	941	63
基山町	715	52
上峰町	347	23
合計	4,128	290



基山町		
	件数	人
身体	70	9
知的	90	12
精神	464	17
発達障害	57	9
難病	4	1
重心	3	1
高次脳	2	1
手帳なし	25	2
合計	715	52



上峰町		
	件数	人
身体	94	5
知的	102	10
精神	106	4
発達障害		
難病	3	2
重心	2	1
高次脳		
手帳なし	40	1
合計	347	23

※ 表中の”相談者数”及び”人”の数値は実人員

～編集後記～

「平成最後の〇〇」をいろんなところで言葉や耳にしたかと思います。今回が平成最後のキャッチ通信になります。5月1日より「新元号最初の〇〇」で日本中にぎわうのではないかとひそかに予想しています。次回の発行は、新元号になる5月に発行予定です。 (文責：高口)

○鳥栖市・みやき町・基山町・上峰町にお住まいの、障がい者本人、障害のある方を支えている家族及び支援者からの相談をお受けします。

障がいの種別、手帳の有無は問いません。相談は無料です。

<相談窓口開設時間>

9:00～18:00 (月～金)

9:00～17:00 (土)

- ・上記時間帯以外でもご相談をお受け致します。事前にご連絡ください。

特定非営利活動法人 総合相談支援センターキャッチ
 住所：佐賀県鳥栖市宿町 1041-3
 電話：0942-87-8956 FAX：0942-85-9003
 Mail：so-sodan@tosumiyaki-sodan.or.jp



虐待を見た、
 虐待を受けたと思っている方はご一報ください。
 鳥栖・三養基地区 障がい者虐待防止センター
 TEL.0942-85-8900